

筋ジストロフィー関連職種セミナー in 静岡
2019.09.15 静岡

神経筋難病診療における 多職種連携サポートチームについて



国立病院機構 箱根病院

阿部 達哉

本日の内容

1. 神経筋難病診療における多職種連携の必要性
2. 難病診療における多職種連携の問題点：
必要性（理想）と診療報酬（現実）との乖離？
3. 神経筋難病の診療に関わる職種だからできること（できていること）：

治療 (cure)



医療機関への受診



診断



治療

ケア (care)



診断後の問題



治療と療養の継続



療養の場所の問題

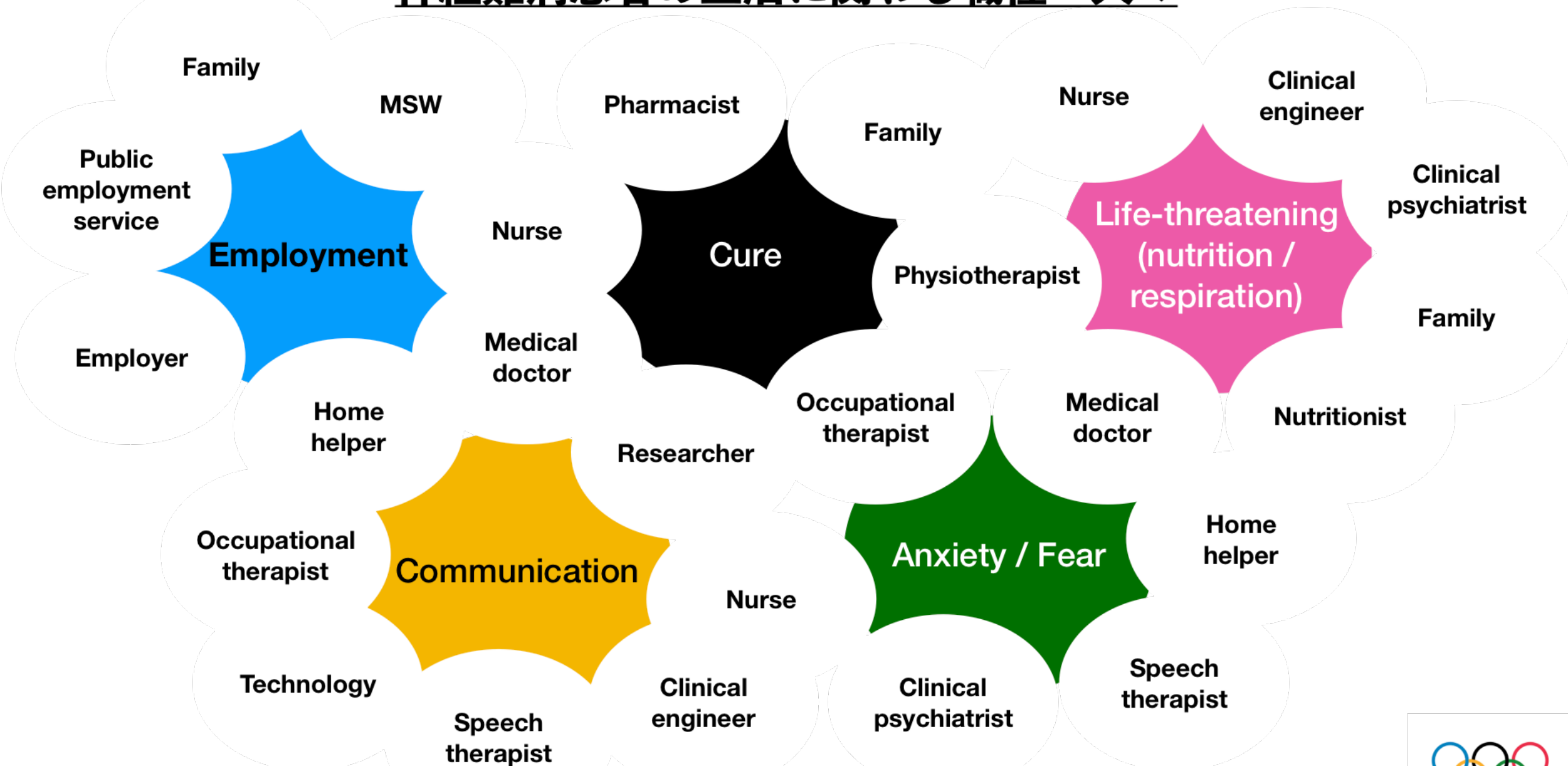


在宅療養？



入院療養？

神経難病患者の生活に関わる職種・人々



筋ジストロフィーをはじめとする神経筋疾患では大きな問題となる



多職種診療と診療報酬

- ・過去の診療報酬改定において2010年から人工呼吸器早期離脱を目的とした呼吸器ケアチーム加算（150点/週）が、2018年から末期心不全に対する緩和ケアチーム加算（390点/日）が保険収載された。
- ・有効な治療法がなく、特に医療ニーズが高い難病患者においては、病状・病態が患者の生活の質（quality of life：QOL）に影響を及ぼす。そのため、「多職種が連携した診療」の有効性が期待されるが、上記の2項目以外については未だに保険収載はされていない。



難病診療連携拠点病院における多職種連携サポートチームの実態調査

平成30年度 厚生労働省難治性疾患政策研究事業「難病患者に対する総合的支援に関する研究」班研究 研究代表者：小森哲夫

方法：平成30年（2018年）10月時点において難病診療連携拠点病院に指定されていた25医療機関（14都県）を対象とし、アンケート調査をした。厚労省を介して医療機関へ送付し、回答は都県の難病対策担当課より回収した。（**全ての難病を対象**）

アンケート項目（難病診療に関して）：

- 1）病院における多職種連携サポートチームの活動の有無
- 2）活動内容の実態（構成職種、活動時間・日数、院内・外での活動の詳細）
- 3）難病診療における多職種連携サポートチームの必要性の有無（自由記載を含む）



回答を頂いた8都県

結果：8都県からの回答があった（回収率 57.1%）

項目1）、2）：8都県の難病診療連携拠点病院では、多職種連携サポートチームの活動はなかった。

項目3）難病診療における多職種連携サポートチームの必要性

- ・ **必要あり**（5/8都県）：**62.5%**
- ・ 必要なし（2/8都県）：25.0%
- ・ 無回答（1県/8都県）：12.5%

自由記載

・ **必要あり**：

1）難病を対象としたサポートチームは必要であるが、**診療報酬算定**等、医療機関にメリットがないと、チーム活動・診療は困難である。

2）難病を問わず、既にサポートチームの活動はしている。しかし、**診療報酬算定**ができなければ、病院内でのチーム活動に対する理解は得られにくい。

3）難病を対象としたサポートチームは必要である。しかし、通常業務が多忙であり、チーム診療を行うには**診療報酬**などメリットがなければ難しい。

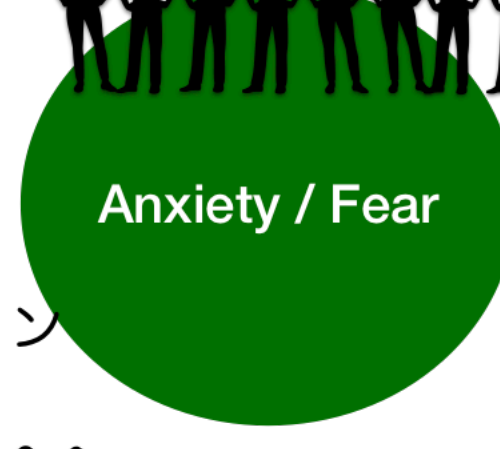
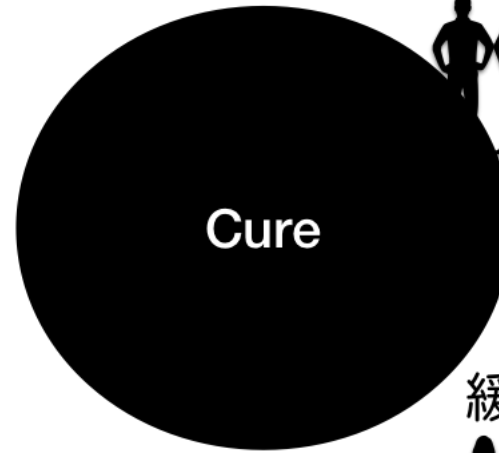
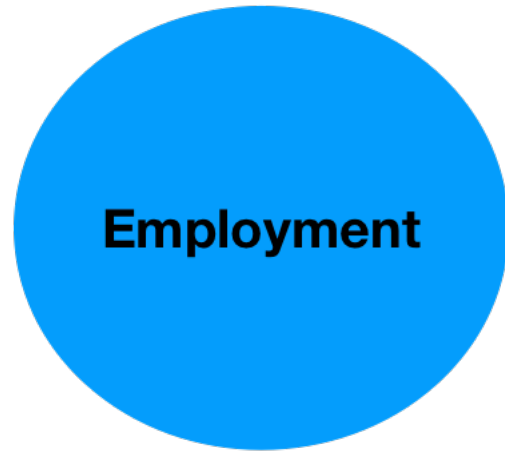
・ **必要なし**：

1）既に、一般診療において多職種の介入があるので、わざわざ難病に特化した多職種連携サポートチームを作る必要性は感じない。

2）そもそも、難病診療において多職種連携サポートチームは必要ない。

神経難病患者の慢性期ケアに関わる多職種チーム（院内）

（箱根病院における4つの多職種連携チーム）



栄養サポートチーム

呼吸ケア・サポートチーム

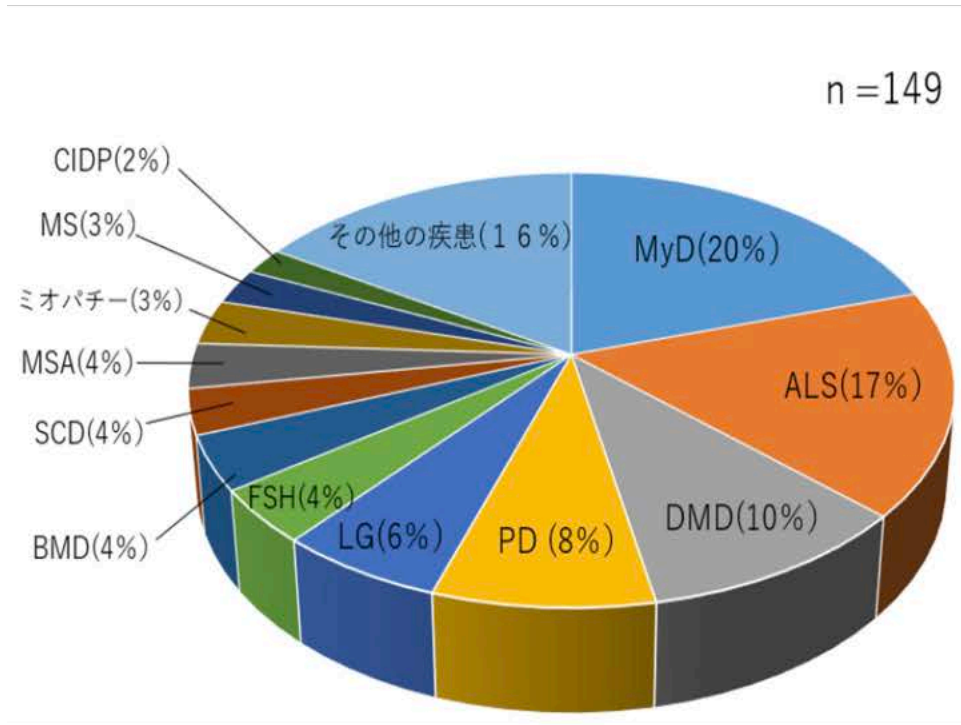
緩和ケア・サポートチーム

コミュニケーション
サポートチーム



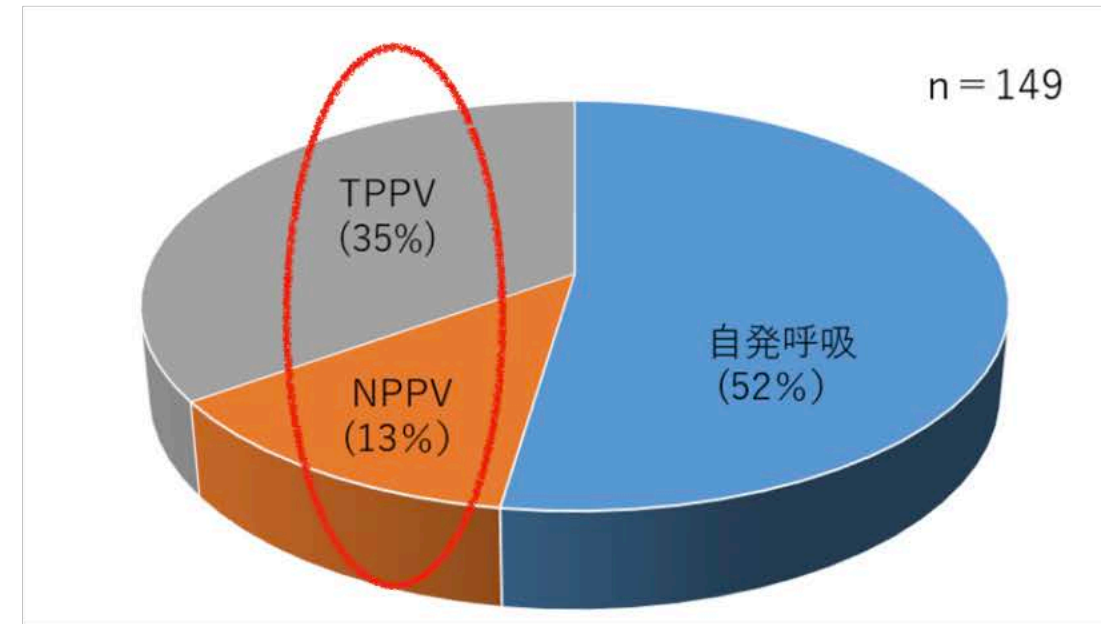
箱根病院における入院患者の疾患別割合と呼吸状態（2016年10月）

当院入院患者の疾患別割合



当院の入院患者の多くは、MyD、ALS、DMDなど神経筋疾患で占められる

当院入院患者の呼吸状態

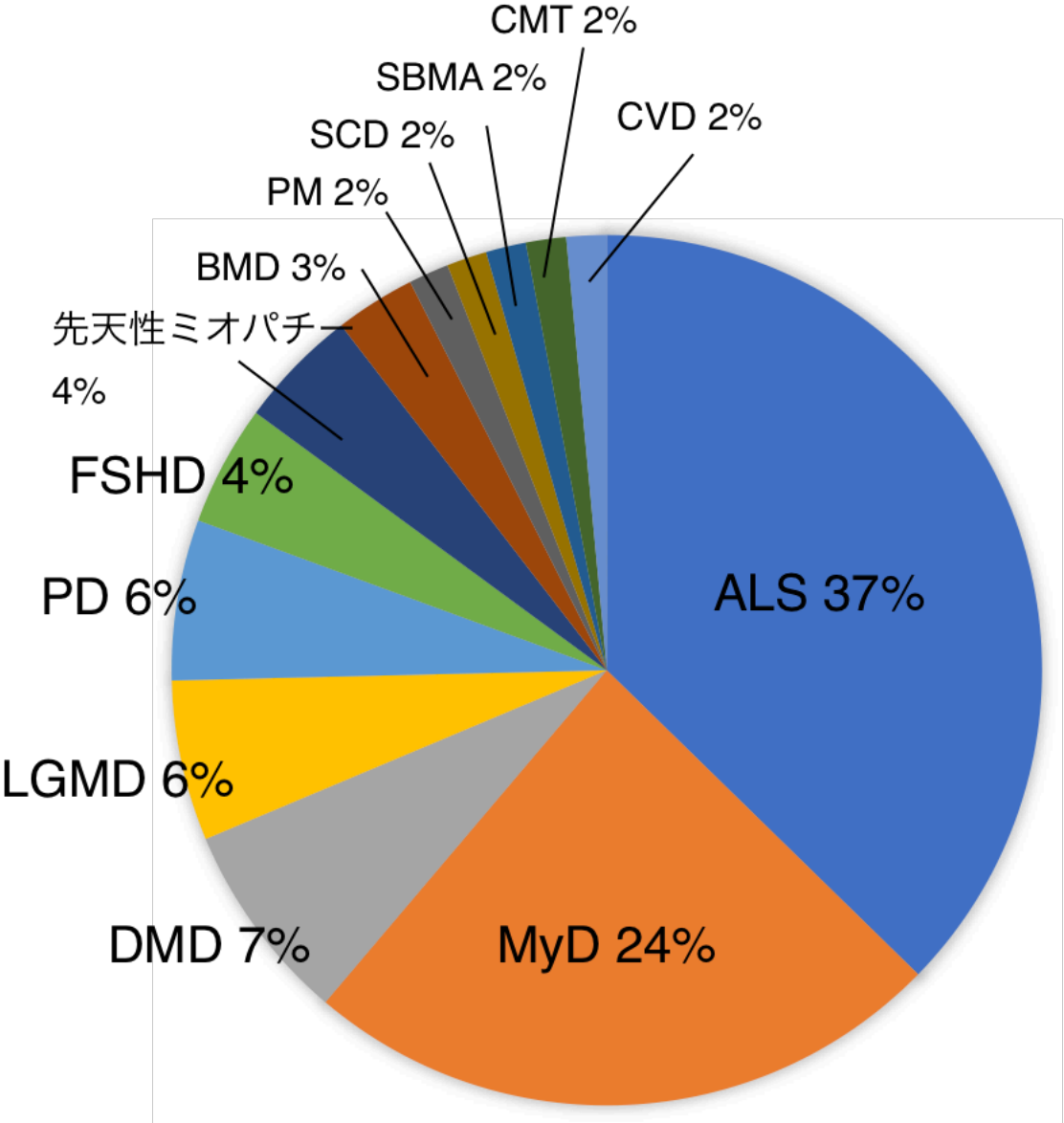


入院患者の約半数弱（48%）が人工呼吸器を装着している

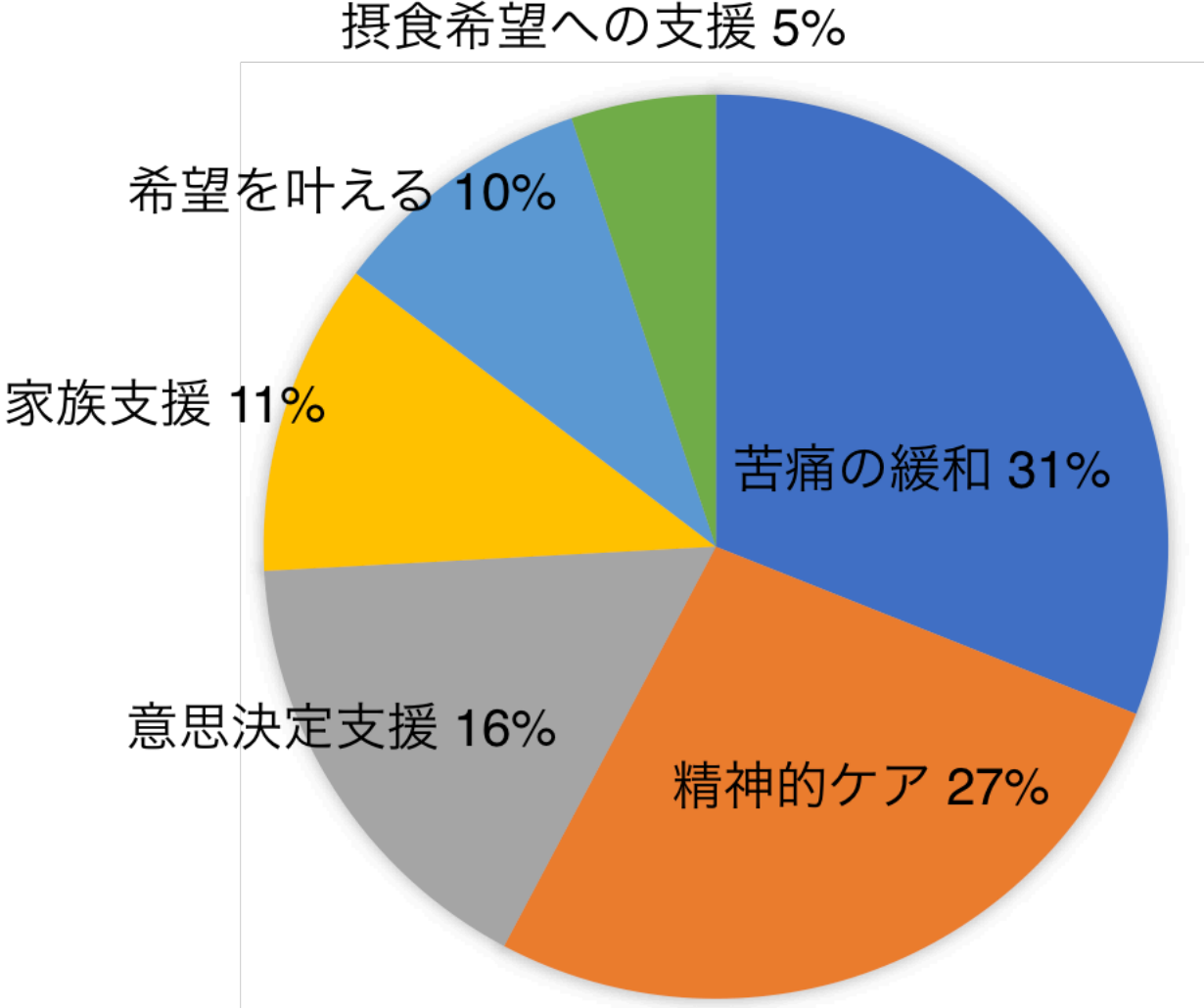


医師 1名、看護師 2名、理学療法士 3名による呼吸ケア（多職種診療）

当院の緩和ケアチームの介入した疾患と内容（全67例、述べ116件；2016年4月～2019年4月）



ALS以外の疾患での介入も多い



摂食希望への支援 5%



箱根病院 緩和・倫理 合同研修会（院内向け）
 職業倫理と臨床倫理に関する研修
 （平成31年3月）



平成30年度 神経難病連携

第4回 「風祭フォーラム」

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

今年度第1回目(通算3回目)の「困窮フォーラム」でもたくさんの方々にお越し頂き、ありがとうございました。今後とも神経難病の医療と介護の連携のため、地域で支える関係機関の方々と学習をしながら交流を深めていきたいと考えております。

第4回「関係フォーラム」(平成30年度2回目)を下記内容で開催させて頂きます。
人工呼吸器の研修となりますがケアマネージャーさんや介護士さんにも分かりやすい
内容になっており、実際に人工呼吸器を装着体験させて頂きたいと考えております。な
かなかいい機会ですので多くの方のご参加をお待ちしております。

[illegible]

日 時：平成30年10月24日（水）18：30～20：00（18時受付）

會 場：箱根病院 2 階療育指導室

対 象：在宅医療・看護・介護に関わる方

(医師・ケアマネジャー・看護師・理学作業療法士・介護士等)

内 容：1. 講演会（20分）

「非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）について（入門編）」

2. 体联会 (45 分)

「人工呼吸器を触ってみよう、着けてみよう!!」

講 師：新根病院 臨床工学技士 伊生 伸一

※ケアマネージャーさんや介護士さんにも

分かりやすい内容になっております。

3. 質疑応答 (15 分)

4. 各事業所からの連絡（10分）

【申込み】

別紙申込み用紙にて箱根病院に FAX

※平成30年10月17日(水)締め切り



【お問い合わせ】

独立行政法人 国立病院機構 箱根病院 神経筋・難病医療センター

地域医療連携窓 回診: 杉山、島岡

連絡先: 0465-20-8622 (地域医療連携室直通電話)



地域の医療従事者への研修会

- 1) 風祭フォーラム（平成29年12月～）
「神経難病に対する栄養について」
- 2) 神経難病地域リハビリテーション研修会in箱根
- 3) 呼吸ケアチームによる呼吸ケア研修
（平成28年4月～）
「排痰ケア（スクイーピング）の実技研修」
「肺レントゲン所見の基礎と解釈」

箱根病院での多職種連携チームの活動のまとめ

(今回は、2つのチームについて)

呼吸ケアサポートチーム

- ・ 医師、看護師、理学療法士、臨床工学士でメンバーを構成している。
- ・ 神経筋・難病患者は、呼吸筋障害による呼吸器合併症を生じやすい
- ・ 荷重肺障害による無気肺や誤嚥性肺炎が多い
- ・ 多職種で構成した呼吸ケアサポートチームによる呼吸ケアは、神経筋・難病患者の生存率を上げる可能性がある。

緩和ケアサポートチーム

- ・ 医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、MSWでメンバーを構成している。
- ・ ALS以外の患者さんにもニーズがある。
- ・ 薬剤などによる苦痛の緩和、精神的ケア、意思決定支援、家族支援、希望を叶える、摂食希望への支援を関わっている。
- ・ 地域の難病に関連した医療職との情報共有も必要である。

神経筋難病診療で活躍している皆さんだからできること

これまでの経験を活かした多職種連携

1. 神経筋難病の病態に合わせた各専門職職種の役割・技術の伝承 → professionalsの育成・診療の質の向上へ
(皆さんの経験や知識、技能を共有する：同職種間で)
2. 神経筋難病を抱えた地域の医療機関との診療連携（情報提供・診療提供） → 何かあった時の対応できるように
(多職種間での連携：interprofessional work)
3. (難病診療連携拠点病院を中心とした、) 関連職種を対象とした研修 → 地域でのサポートを強化するために
4. 国立病院機構病院を活かした情報・診療の連携 → これまで神経筋難病診療の経験を活用する